



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1926, 6(6): 457-466

ISSUE DATE:

1926-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183194>

RIGHT:

の評價は定まる、蓋し大唐西域記は大明の藏經に入つてゐる唐僧玄奘の渡天記である、西域及天竺を周行して地理風俗文化について極めて詳密に記されてゐるから東洋歴史研究者の絶好資料である、ここに玄奘は歸來支那での新譯の巨擘で、唐以前の鳩羅什や其他の舊譯に就て音義兩譯の文字を正した人であるから佛教史上に於ても忘るべからざる恩人である、本書はこの玄奘の西域記第十卷中の耽摩栗底國から秣羅矩吒國に至る東印度の十國について、専ら其地理及歴史を研究せられた結果で、高桑文學士の篤學にして始めて成し得られたものである、其考證の該博にして論斷の嚴密なる、記述の豊富にして内容の充實せるは獨に予の自ら任ずる所なりと自慢してゐる、誰でもこれ丈自己の著述に冒頭しうることは出来がたいものであるのに、氏は更らに從來不安定なりし東南印度の歴史及地理に確實なる固定點を與へたりとのべてゐられる。これ迄西域記には故堀謙德氏の解説西域記があつたのであるが、今度この書を得て東南印度の方面が餘程精密に明にされたのである、即、耽摩栗底國、烏茶國、恭御陀國、羯陵伽國、南憐薩羅國、案達羅國、駄那羯磔迦國、珠利耶國、達羅毗荼國、秣羅矩吒國、實に字を見る丈けでも、肩のこるやうな西域記の國名は、本書によつて其位置が明にされてきたのである、況んや其地理風俗、歴史が本書によつて明にされたのであるから、學界の爲めに慶賀せざるを得ない、蓋し近來の歴史地理學上の一大貢獻であると信ずる。(藤田)

○河内國中河内郡日下の貝塚

クサカ

貝塚の地名はあつても從來貝塚として明かなものがなかつた本年十月大阪在住の齒科醫である八木博士は中河内郡孔舎衛村^{クサカ}日下で廣い貝塚を發見された。其の後京大文學部地理學教室の小牧講師が實地踏査の結果見聞された所によると、地は生駒山北西麓の緩斜地にあつて日下部落の西部の民居を夾んで南北一町餘に亘つて居り、表土一尺の下に厚さ一尺の貝層がある。貝層中からは繩紋系及無紋の土器が出、地表には讃岐岩から成つた石鱗が散布されて居る。この貝塚の貝は主にセキシミで、他の多くは淡水産のもので現今の琵琶湖産のものと同様である。猶稀に海からの入江にある海産の貝もある。是を以て觀るに生駒山の西麓地方の沖積層地には入江もあり、湖沼もあつたのであらう。それにしても此の貝塚は概觀して淡水貝塚と云へる。京大地質學教室の黒田氏の鑑定による貝の種類は次の如くである。

Hyriopsis schlegelii (V. Martens) イケテフガヒ
Corbicula sandri Reinhardt (Var.) セキシミ
Viviparus japonicus (V. Martens) オホタニシ
Semilucospira reiniana (Brot) シュメンカハナシ
Ostrea gigas Thunberg カキ

Dosinia japonica (Reeve)

カガミナヒ

Meretrix meretrix (Linné)

ハマガイ

Saxionnus purpuratus (Sowerby)

ウサアラサキ

Thais (Mancinella) browni (Dunker)

ベイヤナヒ

○日本海中の大和堆

大正十三年七月特務艦大和は能

登の北西方距岸約百五十哩の地點に最小水深四三三米の一大堆を發見し(地球第二卷七〇五頁、第四卷第一版、第四卷五六頁參照)大和堆と名づけられたが本年七月上旬大和は更に之を精測した。此結果に依るに前回の最小水深四三三米の附近には二八八の淺所があり、之より北東約一哩の所に二八六米の最淺所がある。又三百米以下の水深の所は廣い區域に擴がつて居ることも分つた、大和堆の大體は次の如くである。

一、堆の位置及廣袤 北緯三九度より同三九度三〇分東經一三四度一〇分より同一三五度四〇分の間に在つて、大凡東北東約三〇哩に擴延し南北の幅は約七哩である。

二、水深及形狀 最淺點は上記の如く二八六米で東北東に長い帶の約中央に在つて、堆は一般に水深六〇〇米より以下が急斜し、殊に北側の六百米の深さ附近から一七九一米の深さの點までの平均傾斜は約七度、南側の急斜の所で深さ三百乃至千米の平均傾斜約五度半である。六〇〇米より上は緩傾斜で頂は比較的に平坦であり、卓狀を成したものと云へる。

三、堆には特に海藻を認めない、附近で一兩回雜小魚の群游を認めたのみである。

○改版日本近海水深圖

(水路要報第五年十一號に據る)

報第四年第三號に掲げられ、其の縮小圖は本誌第三卷六一二頁に掲載したが、最近の水路要報(第五年十一號)に其の改訂された圖が公にされた。同誌の記事によつて改められた點を略記すれば下の如くである。

本年五月軍艦滿洲が東京灣口から南東に向ひ、南島島附近を経て東「カロリン」諸島に至る間に行つた深海錘測の結果に依れば六千米以上の深さの面積は今迄想像して居たよりも遙に縮小され、小笠原群島の東方にある六、二六五米の海淵(地球第三卷六一二頁の水深圖には其の位置を記載せず)が日本海淵の續きであるか疑はしくなつた。又南島島の南西方に存在疑はしいと海圖に記されてあつた疑礁は搜索の結果存在しない様である。マリアナ諸島東側の傾斜は前の水深圖に記したよりも緩であるらしい。

大正十四年に軍艦滿洲が南方諸島から西方の太平洋で行つた深海錘測の結果は、此の方面の水深を餘程確實にした。其れによれば、從來此の海面の大半は五千米よりも深く、六千米以上の區域も相當に廣いと思像して居たのは誤りで五千米以上の深海の面積は可成りに小さくなり、六千米以上の深さは極めて小區域であることが明かになつた。又琉球海溝は從來考へられて居たよりも遙に北東方迄延びて居ることが確かめられ、猶ほ海溝中の六千米よりも深い部分の長さは從來の約二倍となつた。

北海道北岸から樺太東岸中知床岬附近に至る二百米等深線は確實となつた。北海道西岸利尻島の南西で特務艦武蔵は大正十四年に最淺三一米の大きい堆を發見した(地球第四卷四八九頁参照)。此の堆は武蔵堆と命名せられた。日本海の中央で發見された大和堆については前項に掲げた通りである。

昨年發表された海深圖を獲て吾等地理學愛好者は非常に喜んだ。今僅に一年半にして此の改訂版を得て日本海の真相を漸次に知つて行くことが出来るのは一に水路部の努力の結果である。地球愛讀者が水路要報第五十一號(發賣所東京丸ノ内日本郵船株式會社、定價二十錢)所掲の改訂日本近海の深さの圖を机邊に備へられるのを勧めする。(N)

○地球學圖第一回研究發表會 本年十月日本學術協會第二回總會が京都で開かれ、多數の學者が上落した好期をトして、我地球學團は第一回の研究發表會を十七、十八兩日午後一時から四時までの間に帝大理學部生物學講堂で開いた。さう多數の會員が參集せられて、豫想以上の好成績を擧げることを得た左に其大要を報告する。

第一日第一席、地理學的考察と學的説明 神田逸二

神田氏は前任地靜岡縣で同縣地理を著はされた篤學の士であるが、其蒐集せられた材料によつて、地形及人文の説明を巧妙な略圖の上で教授する方法を説明されて、満場のものは其描圖の努力と説述の力あるのに感心した。

第二席 隱岐島の火山岩に就て 春本篤夫

春本學士が昨年隱岐島調査の結果である、本論文は本誌上

に掲げる。

第三席 重力の分布より見たる鹿兒島平野下の火山岩の存在 松山基範

重力偏差測定の結果から、鹿兒島灣附近の地下に存する重い岩石の分布を推定された精細な大論說である、これ又本誌上に掲載するの目の近きことを報告しておく。

第四席 近畿に於ける條里式村落の一例 藤田元春

古い條里の近畿に實施された其遺跡と思はれる近江國栗太郡常盤村に存する條里と其條里の中にある村落の形式とに關しての報告である、小川教授は其の條里は新しいと云はれた、議論は將來にのこると思はれるが、此村の外にも明に條里の残つた村が近江には猶二三あるから、これを比較研究して本誌上に發表せられるであらうと思ふ。

第二日第一席 關東平野に於ける重力偏差の分布 熊谷直一

大地震後測地學會の依頼で調査した關東平野に於ける重力偏差の分布を述べて其地質構造との關係を説いた。なほ地形の重力に及ぼすコレクションの方法を案出されて、今後之を用ひて眞の偏差に近いものを出さうとして居ることを述べられた。何れ其の詳細は本誌上に發表されるであらう

第二席 掛川統の動物群に就いて 横山次郎

數年前より研究してなされた掛川統中の大日砂岩の軟體動物化石百八十種の各につき注意すべき事項を述べられた。此中九十種は現生種で今日相模土佐の間に棲むものである氏は此フオーナの時代を下部鮮新プレーサンシアンとされ

た。詳細は本文にて近く發見される由。

第三席 朝鮮平原附近の原生界及寒武利亞系の層序と其の構造

中村新太郎

原生界と寒武利亞系との間には角礫があつて不整合であるらしい。原生界を祥原層と名づけ之を二統とし上を祠堂隔統(厚さ千四百乃至四千百米)、下を直觀統(厚さ千米)とする。寒武利亞系の方は下部寒武科亞より中部に亘る。上部の化石は未だ發見しない。構造は覆瓦構造の甚だしく複雑なものを造り、大衝動面の上には反對に衝上した小衝動面が極めて多い。

第四席 朝鮮江西、大寶炭坑附近の地帯構造 今野園藏

氏が數年來研究されて居る構造の甚だ複雑な炭田地方の地帯構造を層序研究の結果明かにしたもので、こゝにはカンブリアより侏羅に至る各種の地層があつて、このうちには褶曲もあるし北からの大衝動面があつて、これは侏羅紀後の地殻變動である。此の地方を嘗て見たものに對しては如何にして此の困難な仕事を仕おほせたかを賞讃せずに置かれぬ程、氏の努力の大であるのを聴者をして感ぜしめた。

○第四十五回文檢地理科豫備試驗問題

一、地殼平衡説と山脈及び海溝との成因に關する諸説を述べよ。

二、隆起珊瑚礁の分布に關する重要な諸問題を述べよ。

三、ニューファンドランドの近海につきて記せ。

四、天龍川流域を圖示しこれを説明せよ。

五、アメリカ合衆國の石炭石油鐵の主産地を圖示しこれを説明せよ。

六、スラブ民族を分類し其の分布を圖示せよ。

七、左の諸項につきて知る所を記せ。

(イ)長崎三角地 (ロ)カナダ橋狀地 (Canadian Shield)

(ク)國際運河 International Canal (ニ)慶州

(ホ)南口 (ヘ)ベルフォール (Belfort)

(ト)ダーバン (Durban)

○日本から瑞西へ時計側及硝子輸出 瑞西といへば懷中時計で世界を相手にしてゐる大規模の國であるが、今回之に用ふる時計側及硝子類に就て、我國より有利に輸出せらる見込みあり、男子腕時計用銀側ニッケル側等は堅牢の點に於ても、出來上りの點に於ても本邦製のものば瑞西製又は佛國品に比して優秀で低廉である、そこで瑞西から我國へ取引希望が申越されてきた、尙又昨年大阪へむけて價格二萬圓弱の安物懷中時計用ガラスを注文したが、包裝不充分であつたため、印度洋上輸途中ガラスの實に化學的變化が出來疊が出來たため輸出が一度でやめになつたこの事である、しかしこゝうした小さい工業品の註文が我國に向つてくるといふことは將に大々獎勵すべきことであると思ふ。

○蘇丹の棉花

埃及第十九王朝ラメス二世の時其領地は

この地に及び、奴隸と象牙と黄金の供給源であつたスーダンは今や英國の維持開發によつて、こゝに奴隸労働を行つて棉

栽培をやらしてゐる、面積百萬平方哩、米大陸の三分一に相當する廣大な地は一九二四年十一月カイロに於ける司令長官サー、リ、スタックの殺害以來、事實上英國の保護領となつてしまつた、蓋し事件の翌日、英國政府は二十四時間以内に埃及士官の全部及埃及人よりなる埃及軍際の蘇丹より撤退せんことを要求し且ダスィラに於て開墾地を三十萬フェツダンより無制限に擴張し得といふ最後通牒を發したからである

蘇丹の首府カルツウムはナイル河第二瀑布に近くカイロの南八百哩にある、鐵道延線五八一哩は一八九七年キヅチナ將軍の敷設したもので、人口四萬と稱すカルツウムはアラビヤ語で象の鼻といふことで土地が屈曲してナイルの兩支流の間に突出してゐるからである、アラビヤ人と黑人及其混種で二百以上の種族が集まる、この都の今日の發展はダスィラ平原の南に大規模の長纖維棉栽培地を開拓したためで、マクワル堰とセルナ堰にて灌漑し、昨年は三十萬英町の耕地であつたが將來三百萬英町にもなりうる平原である。

しかし此處でナイルの水を、あまり廣く使用されると、下流埃及の開發された土地が乾くだらうといふ心配があるので目下國際委員會を開き、上流にも、下流にも、都合のよいやうに貯水所を設備せやうといふことになりかけてゐる、この棉花はサケラリデイスといひ長さ約一時十六分七、米國アリゾナ州のピマ棉について長い纖維である、將來英國は其ランカシアの原料をこの地から得て、米國棉に對抗するだらうと囑目されてゐる。

○北滿洲の亞麻

北滿洲へ一九二三年に試作として輸入された亞麻は最初ハルビン近郊に移植したのであるが、今日迄四年間の成績が甚だよい、恐らく將來は北滿洲生産物の大宗たる大豆の壘を壓するであらうと考へられる、最初は個人經營であつたが近頃は支那の要路者の所有地などに團體企業家が現はれてきた、播種は本年度、六月中旬より行はれ、七月八日に完了した降雨量が多かつたので作物が特別によかつた、來年は收穫一萬八千布度に達するであらうといはれる、其產出品を自耳義に送付した所大に同國新業者の好評を博し哈爾濱に製麻會社を設ける計畫をしてゐるといふ。

○智利硝石

智利硝石は智利國輸出品の最重要品で五割八分から五割四分を輸出したのである、一九一三年には四十五萬噸を世界に供給した、當時窒素肥料の世界の總消費額は八十二萬三千噸であつたから結局智利硝石は全體の五七%を占めたのである、然るに戦争當時、火藥に用ひられし硝石も平和回復の後重に肥料としてのみ使用せられ他方獨逸に人造窒素肥料製造が勃興して、世界市場智利硝石の市場を蠶食することになった、其は左の表でわかる。

| 年次 | 世界消費額 | 智利硝石 | 百分率 | 人造肥料 | 百分率 |
|------|-----------|---------|------|---------|------|
| 一九一三 | 八三〇,〇〇〇 | 四〇〇,〇〇〇 | 四八・七 | 四三〇,〇〇〇 | 五一・三 |
| 一九一四 | 八五五,〇〇〇 | 三九四,〇〇〇 | 四六・一 | 四六一,〇〇〇 | 四七・九 |
| 一九一五 | 八四〇,〇〇〇 | 三六〇,〇〇〇 | 四二・九 | 四八〇,〇〇〇 | 五七・一 |
| 一九一六 | 一,一三二,〇〇〇 | 四四四,〇〇〇 | 三九・二 | 六八八,〇〇〇 | 六〇・八 |

一五七 一五二、〇〇〇 四八、〇〇〇 三八、四 七二、〇〇〇 六、六
 一五八 一三三、〇〇〇 四〇、〇〇〇 三三、〇 八四、〇〇〇 六、〇
 一五九 一八〇、〇〇〇 四〇、〇〇〇 三〇、七 六二、〇〇〇 六、三
 一六〇 一六三、〇〇〇 四四、〇〇〇 三六、 八六、〇〇〇 六、四
 一六一 一五、〇〇〇 三三、〇〇〇 四二、〇〇〇 六、七
 一六二 一三、〇〇〇 三〇、〇〇〇 三六、
 一六三 一四七、〇〇〇 三三、二 六三、〇〇〇 六、八

蓋し人造肥料が安價であるから、智利硝石が負ける、そこで營業中止、工場閉塞で失業したものが二萬人にも達したと云はれ、智利議會で大問題になつてきた、そこで硝石同業組合を解散し値段引下を行つて、人造肥料に對抗することを考へるやうになつた。

○埃及の植物

埃及の歴史に變化があつたやうに、植物も時代と共にかはつた、現在埃及に百五十種の植物があるが其中紀元前に記録されたものは五十種しかない、しかも其五十種の中四十種は古代の墳墓から發掘される位で、残り十種は記録あるのみであるから、全く植物が變化したのである、地中海岸、東部地方、ナイル流域、東部オアシス、紅海岸と五つの分布區域があつて、各特種の植物を有つてゐるが、埃及の氣候は各地殆んど一樣にして大差がないから、この分布を氣候の影響とは云ひ得ない、むしろ水分の供給に關する地形の影響によるさいふべきであらう。

○トボルスク近況

トボルスクは西伯利に於ける三百年

の古き町にてイルツィツシュ川に沿ひ、西比利亞最初の文化中心地なるが、近頃衰微して人口二千に對し寺院二十二もあり、外に數十個所の禮拜堂残りて十七八世紀の記念物となる多くは訪ふ人もなく、アンテナを張るにすぎず、自轉車一臺もなく、街頭には草蓆々として牛馬羊徘徊す、恰も村落の如し。其博物館の圖書室には書籍七萬卷シベリアの研究資料を藏す、現今はウラリスカヤ州に屬して歐露の一部となりたれども、人民は一般に西比利亞なりと考へ居れり、近時鐵道敷設の議あり、オムスクよりするが、チューメメンよりするが、研究中なり、もし鐵道が通じたらばこの舊く睡り居れる歴史的の市は活潑に蘇る日もあるべし、蓋し市の東北に九十萬平方杆の曠野、三十三萬平方杆の森林あり、物産豊富にして見込多ければなり。

○小麥生界產額

一九二五—六年度の小麥播種地積は世界を通じて一一一、五九六、九八七ヘクタール（一ヘクタールは我一町二十五步）は前年度の九九・七%である、しかし實收高は一〇七、六〇九、九六七噸で前年の九五、一〇七、〇六一噸よりも多く一一三・一%に當る。これを大陸別にすると

| | | |
|------|--------------|----------|
| 歐洲 | 四、九五、五六ヘクタール | 五、七六、六〇噸 |
| 北米 | 三〇、四九、四〇〇 | 二、七四、〇〇〇 |
| 南米 | 九、〇〇、九五三 | 六、四〇、七六一 |
| アシア | 一六、六七、八一 | 一、五九、三九 |
| アフリカ | 四、二六、六八 | 三、一五、六六七 |

瀛洲

英一千九百零六

三〇四元、五二

合計

一一、五八、九六

一七、〇元、六六噸

この中合衆國は約五百萬噸英領印度百萬噸瀛洲百五十萬噸の減收で、アルゼンチンも亦辛じて平年作であつたが、獨りカナダが四百萬噸を増收し、歐洲も亦豊作であつたから前述諸國の減收を償つて猶且總計一千二百五十萬噸の増收であつた之れ主として勞農露國、獨逸ユーゴスラビヤ、伊太利ルーマニア等の豊作による。

一九二六年(北半球)一九二六—七年(南半球)の收穫は、種々の材料から豫測するに多少増收の見込である。

○世界最南の商港

智利國プンタ、アレナシ市は南米大陸の最南端にして、世界通商上最南の商港なり、特色は市街

の清潔と氣候の不良なることにして其夏は短く、其冬は嚴烈にして霖雨、大雪多く又風強し、最初の植民は多く英人なりしが、現時は全くコスモポリタンにてあらゆる國人を數ふべし、パナマ運河開通後本港は大打撃をうけしが、近時新局面打開せられ汽船はヴァルパライソとブエノスアイレス兩港との間に直通するに至れり。

其州名をマデラン州といひ面積約六萬六千萬平方哩、人跡未踏の荒涼たる岩地又は森林なり、地方唯一の産業は牧羊にして、羊數三百萬頭に達し凍肉百五十萬觔、皮及毛、すべて英國へ輸出せらる、羊毛年額三四百萬弗にして其品質は世界第一の稱あり、附近に褐炭、石油、砂金の産あるも有利ならざるがごとし。

○第三回太平洋學術會議 十月三十日から十一月十一日まで東京で開かれた此の會議には地質地理の海外學者の出席するものが多く、地學に關する研究發表が數多く行はれた。其の部會又は分科會に於ける二三の問題を擧げて見ると、測地又は

重力若くは垂直線偏倚の側定より推算せる太平洋地方に於けるセオイドの形狀、太平洋沿岸諸國の地圖作製に用ふる各縮尺に適應すべき投影法、太平洋地方に於ける地殼運動と地體構造、太平洋地方の火山に關する研究、太平洋地方に於ける中生層相互の關係、鮮新世及洪積世地層の境界、江線の變遷、鑛床成生の時期、石炭及含油層の層位、等であつたが我國の學者では山崎、矢部、岩崎、松山、小澤等諸氏が活躍をした。會員は會期前、會期中及會期後に各地に見學旅行をした。

○大正十四年十月一日國勢調査の結果による

日本内地の人口(四)

| | | | |
|------|---------|------|-------|
| 茨城縣 | 一、四〇、〇三 | 笠間町 | 九、五〇 |
| 水戸市 | 四六、五七 | 矢野町 | 五、八元 |
| 東茨城郡 | 二九、六五 | 岩間町 | 六、〇三 |
| 小川町 | 四、六六 | 岩瀬町 | 七、六九 |
| 石塚町 | 三、七三 | 各村合計 | 三八、三二 |
| 磯濱町 | 二、六三 | 那珂郡 | 一六、三五 |
| 大貫町 | 三、四四 | 湊町 | 一三、〇三 |
| 各村合計 | 六、二九 | 平磯町 | 七、四二 |
| 西茨城郡 | 七、五二 | 大宮町 | 三、二二 |

地球

第六卷

第六號

四六四

七二

各村合計

二五、五〇

久慈郡

二四、六三

大子町

五、三八

太田町

八、七〇

久慈町

六、五五

各村合計

四、五九

多賀郡

二六、七三

河原子町

二、八四

助川町

一〇、四四

日立町

三、六一

豐川町

三、九〇

松原町

一〇、五三

磯原町

九、八〇

大津町

四、七四

平潟町

二、九九

各村合計

四八、七五

鹿島郡

八二、五三

銚田町

三、四四

鹿島町

二、二九

各村合計

六、五九

行方郡

五、〇七

麻生町

三、五九

潮來町

四、六三

玉造町

二、四二

各村合計

四、三三

稻敷郡

二、三七〇

江戸崎町

三、二九

龍ヶ崎町

六、五五

各村合計

一五、九八

新治郡

二九、六三

土浦町

一五、〇〇

眞鍋町

四、九九

高濱町

三、五〇

石岡町

一六、三六

柿岡町

三、五三

各村合計

六、四四

筑波郡

九、七九

谷田部町

四、六二

筑波町

三、六七

北條町

四、二三

各村合計

一七、五〇

眞壁郡

二、二六

下館町

四、九〇

關本町

六、四九

下妻町

七、四八

眞壁町

八、五七

各村合計

一〇、一二

結城郡

結城町

一四、四四

石下町

四、九七

水海道町

七、二四

各村合計

七、四九

猿島郡

二九、二〇

古河町

二六、四四

岩井町

四、三五

境町

四、七〇

各村合計

八三、九二

北相馬郡

四、六七

守谷町

二、六七

取手町

四、二九

相馬町

二、四六

布川町

二、〇九

各村合計

三七、六五

栃木縣

一、〇二〇、四八

宇都宮市

六、二八

足利市

一、四〇一

河内郡

二、〇八〇

上三川町

五、五八

各村合計

一、五、二九

上都賀郡

二、七、六九

鹿沼町

二、〇、四三

栗野町

四、四、七一

今市町

二、七、四四

日光町

一、七、六〇

足尾町

三、五、七七

各村合計

六、〇、四七

芳賀郡

一、三、四一

眞岡町

九、〇、二七

久下田町

五、六、七

益子町

七、五、四

茂木町

八、六、三

各村合計

九、四、八〇

下都賀郡

一、〇、二、二二

栃木町

二、七、七〇

壬生町

七、四、六

石碓町

三、九、四

小山町

二、七、八

間々田町

五、六、〇

藤岡町

四、三、六

各村合計

一、四、〇、六七

鹽谷郡

八、四、三六

矢板町

八、八、八

鹽原町

三、五、三

氏家町

八、六、六

喜連川町

七、二、四

各村合計

五、六、〇、五

那須郡

大田原町

佐久山町

鳥山町

馬頭町

川西町

黒羽町

芦野町

黒磯町

各村合計

安蘇郡

佐野町

犬伏町

掘米町

田沼町

葛生町

各村合計

足利郡

葉鹿町

小俣町

御厨町

各村合計

奈良縣

奈良市

雜

報

添上郡

機本町

各村合計

生駒郡

郡山町

龍田町

各村合計

山邊郡

丹波市町

各村合計

磯城郡

三輪町

初瀬町

柳本町

田原本町

櫻井町

各村合計

宇陀郡

松山町

榛原町

各村合計

高市郡

高取町

八木町

今井町

各村合計

北葛城郡

高田町

新庄町

各村合計

南葛城郡

御所町

各村合計

宇智郡

五條町

各村合計

吉野郡

上市町

大淀町

下市町

各村合計

三重縣

津市

四日市市

宇治山田市

桑名郡

桑名町

各村合計

員辨郡

三重郡

富田町

富洲原町

各村合計

鈴鹿郡

龜山町

關町

各村合計

河藝郡

白子町

一身田町

神戶町

各村合計

安濃郡

新町

各村合計

一志郡

久居町

各村合計

飯南郡

松阪町

柿野町

各村合計

地球

第六卷

第六號

四六

七四

| | | | |
|------|-------|------|-------|
| 多氣郡 | 四七、三〇 | 阿保町 | 二、三九 |
| 大淀町 | 二、七三 | 各村合計 | 三、九六 |
| 相可町 | 三、五七 | 志摩郡 | 六、二六 |
| 各村合計 | 四〇、九〇 | 鳥羽町 | 八、五八 |
| 度會郡 | 九、〇二 | 濱島町 | 五、〇四 |
| 神社町 | 二、七四 | 各村合計 | 五、六四 |
| 大湊町 | 二、四〇 | 北牟婁郡 | 四、七五 |
| 田丸町 | 二、〇八 | 尾鷲町 | 四、三〇 |
| 二見町 | 五、四三 | 引本町 | 三、八七 |
| 各村合計 | 六、三二 | 長島町 | 五、三〇 |
| 阿山郡 | 七〇、八五 | 各村合計 | 二〇、〇八 |
| 上野町 | 八、二五 | 南牟婁郡 | 五、七六 |
| 谷村合計 | 三、五〇 | 木本町 | 五、五三 |
| 名賀郡 | 四、八九 | 各村合計 | 五、六六 |
| 名張町 | 六、五四 | | |

質疑應答

問 長崎三箇地 (文檢問題)

答 長崎三角地 Das Nagasaki-Dreieck とはリヒトホーフ
 エン氏(1)が一九〇三年に唱へた所であつて、西南日本に於て
 中國から九州西北部に連る内帶と、紀伊四國の南部を経て九
 州の東南部に連る外帶との間の中で、松山久留米伊萬里を過
 ぎる東西線と松山八代を過ぎる一線とによつて限られる區域

である。この區域はほど伊萬里八代間を底邊とし、松山を頂
 點とする三角形をなし、未だ十分に研究されてゐないが地體
 構造上特殊な一地域をなすのである。リ氏に據れば東西線以
 北には千三十米の脊振山地があつて主として花園岩より成り
 以南には浸蝕と堆積とによつて露出に制限を受ける。雖も、
 雲母片岩其他の結晶片岩類及片麻岩が基盤をなし、花園岩は
 少い。若し、この三角地域が内帶に屬するものとせば中國の
 西南と同じく西南構造を見るべき筈であるがかくの如き構造
 は全く認められない。

かくの如くリヒトホーフ氏は三角地を内帶に屬せしめる
 ことには大いに疑を有してゐた。然るにナリマン、原田博士
 の地質構造論によれば内外兩帶の境界は臼杵灣から八代に至
 る一線にあつて、この線から西北部は瀬戸内海の延長である
 と考へるのであるから勿論内帶に屬するものであつて、この
 説は一般に認容されてゐた。矢部博士は一九一七年に西南日
 本の内外兩帶を分つべき中央線は松山久留米伊萬里の東西線
 によることを適當なることを述べられ、更に一九二四年に
 今日吾人が知れる所によれば、三波川統結晶片岩の分布は西
 南日本外帶の北縁に規則正しく限らるゝものであつて内帶に
 確實なる其の分布を見出されたることはない。然るにリヒト
 ホーフ氏の長崎三角地域の北縁を以て内外兩帶の境界と考
 へる時は合理的に既知の種々の事實を説明するに最も適當で
 且つ充分であると述べられて三角地域は外帶に屬すべしと
 された。臼杵八代線は白堊紀層の分布上には大切な境界線